

## 看護学科

科目名: 精神看護学実習			担当教員 氏名: 荒木晴美、北山由起子、亀田景子						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2~3年次	通年	専門科目	実習	必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
当事者なりのウェルビーイングのための問題解決方法を当事者とともに考える援助技術を習得する。また退院後の地域生活を支援するための看護師の役割について学習を深める。					精神障害と生活障害 人格の尊重 早期退院 地域生活支援 ストレングス				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			精神科疾患について理解し障害者の生きづらさを理解する。						
B 専門的技術			患者の治癒過程を理解し、看護の役割を意識して援助の方法を考え実習の中で展開する。						
C 論理的思考力			早期退院の精神科医療を理解し患者個々に適した資源の活用を考慮して入院期間の援助を考えることができる。						
D 問題解決力			患者の情報を的確に収集・アセスメントし看護計画で実践できる。						
E 自己管理能力			患者の症状や拒否的反応に対して感情的ではなく症状の一部として理解し対応する努力ができる。実習場で対象者に健康にかかわるための自分自身の心身の健康の管理ができる。						
F チームワーク・リーダーシップ			グループ学習や患者との集団的かかわりの中で、自分の考えや意見を述べるができる。						
G 倫理観			精神科の強制入院や行動制限・処遇について、病棟での実際の運用から実感として理解を深め実践の中で展開する。						
H コミュニケーション力									
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項:									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習への積極的取り組みを重視する。</li> <li>・レポート課題、実習記録の提出状況なども参考にして評価する。実習最終日に教員と面接し総合評価とする。</li> <li>・実習前課題は、提出期日を厳守すること。</li> </ul>									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習    ディスカッション、ディベート    グループワーク    プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:実習記録及び実践について評価し、記録は後日返却する。									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
精神看護学実習は3週間の実習である。 実習施設:和敬会 谷野呉山病院・デイケアおよび就労支援事業所					事前課題の準備 国試問題による学習の確認  実習場所の法的根拠を理解しておく				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者1名を受け持ち、看護計画の立案・実施を通して精神科疾患患者の治療過程を学ぶ</li> <li>・デイケア・生活支援・就労支援について見学実習する</li> </ul>									
実習日程などの詳細については実習要項を参照する									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者・家族・地域の理解</li> <li>・受け持ち患者を決定し看護を展開する</li> <li>・自立・就労支援の見学実習により、精神障害者の地域生活支援を理解する</li> </ul>									
使用テキスト: 精神科疾患管理論、精神看護学概論、精神看護学援助論の講義で使用したテキストと授業資料					その他参考文献など: こんなとき私はどうしてきたか(中井久夫、医学書院) 看護のための精神医学(中井久夫、医学書院)				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本実習の目的を理解し、目標到達に必要な行動目標を明確にして取り組んでください。</li> <li>・担当教員および指導者に報告、連絡、相談を行いながら実習に臨めるようにしましょう。</li> <li>・講義(精神疾患管理論、精神看護学概論・援助論)で学んだ知識と実習で学ぶ技術とを統合できる機会です。</li> </ul>									